



令和2年産（元年播種）

麦類の生育概況 vol.2



埼玉県マスコット
「コバトン」

（令和2年1月9日現在）
埼玉県農業技術研究センター

要約

- ◎気象概況：12月の平均気温は高く、降水量は少なく、日照時間も少なかった。
- ◎生育状況：11月下旬のまとまった降雨により播種作業が大きく遅れた。高温のため播種期による生育のばらつきが大きい。
- ◎今後取るべき技術対策
 - ・踏圧(麦踏み)：3枚目の葉が出たら行い、その後10日～2週間程度の間隔を空けて丁寧に実施する。
 - ・雑草防除：雑草の種類と葉齢、麦の葉齢を確認した後、適期に草種に合った茎葉兼土壌処理剤を散布する。
 - ・排水対策：明きよを掘っていないほ場は必ず明きよを掘り、排水路と連結する。

1 気象の概況

12月の平均気温は、第2半旬を除いて平年より高く推移し、月平均では平年より1.1℃高かった。降水量は、第5半旬にまとまった降雨があった他は少なく、月合計では平年比58%であった。日照時間は多照であった第1半旬を除いて平年を下回り、月合計では平年比78%となった。

2 生育の概況

(1) センター内生育相

ア 小麦（さとのそら）

高温で推移し、11月下旬の降雨の影響で土壌水分も多いため生育が促進された。草丈はほぼ平年並みであるが、葉位の進展が早いため茎数が多くなっている。

イ 大麦（彩の星）

高温で推移し、11月下旬の降雨の影響で土壌水分も多いため生育が促進された。草丈は高く、葉位の進展が早いため茎数が多くなっている。

(2) 県内全般

12月11日現在の麦類の播種作業は大麦が77%（平年98%）、小麦は67%（平年97%）と例年になく播種作業は遅れた。これは、11月下旬のまとまった降雨により、ほ場に入れにくいことによる作業の遅れ、加えて湿害や土壌クラスタの形成による発芽不良などによる播き直しのためである。10月の台風19号による記録的な降雨などによりもともとの土壌水分が高めだったこ

とが被害を助長した。播種作業は年内には概ね終了した。適期に播種できたものは高温、十分な土壌水分および寡照により徒長気味の生育を示している。

3 今後の生育予測

(1) 気象予測

気象庁が1月9日に発表した1か月予報では、向こう1か月の平均気温は高い確率70%、降水量は平年並または多い確率40%、日照時間は少ない確率50%である。

また、12月25日発表の3か月予報では、1月の気温は高い確率50%、降水量は平年並または多い確率とも40%、2、3月の気温は平年並または高い確率40%となっている。

(2) 生育予測

暖冬予想のため、適期に播種された小麦、大麦の生育はさらに促進され、過剰生育による生育後半の凋落の懸念が高まっている。また、ビール大麦など秋播き性程度の低い品種は幼穂形成が前進化することにより、凍霜害が発生する可能性が高まる。一方、晩播ほ場では生育が促進されることで、播種の遅れによる生育遅れをある程度取り戻すと考えられる。

4 今後取るべき技術対策

(1) 麦踏み

徒長を防止し、分げつや根の発生促進、耐寒性の向上を目的に10日～2週間程度の間隔を空け、ローラーに適度なおもりを載せて丁寧に行う。生育の遅れているほ場では、麦の3葉目が出たら軽めのローラーで1回目を実施する。土壌水分が高くローラーに土がつくような場合には麦踏みは行わない。

(2) 雑草防除

播種後土壌処理剤を散布できなかつたほ場や、雑草の発生が始まったほ場では、雑草及び麦の葉齢、雑草の種類を確認し、適期に使用可能な茎葉兼土壌処理剤を散布する。

(3) 排水対策

近年、冬期でもまとまった降雨や降雪が多いため、明きよを設置していないほ場では必ず設置する。設置済みのほ場でも、排水路と連結されているか、麦踏み作業などで埋もれていないか等を確認し、問題があれば速やかに補修する。

解析・考察に用いた具体的数字

1 12月の気象表(熊谷気象台日別測定値から集計)

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	8.9	8.2	14.7	13.5	3.8	3.5	0.0	8.0	35.5	30.5
2	6.9	7.4	10.3	12.8	2.7	2.7	0.0	6.0	12.4	30.9
3	8.3	6.6	13.9	12.1	3.6	1.9	0.0	5.1	27.5	31.9
4	8.3	5.9	13.8	11.5	3.8	1.2	2.0	4.7	23.3	33.4
5	6.3	5.4	10.1	11.0	2.7	0.6	18.0	5.0	24.9	34.2
6	5.9	4.9	11.9	10.6	2.2	0.1	0.0	5.4	34.8	41.4
平均	7.4	6.3	12.4	11.8	3.1	1.6	合計 20.0	34.2	158.4	202.3

注. 半旬数値は熊谷気象台日別測定値から集計。ただし、月平均、合計値は気象台値

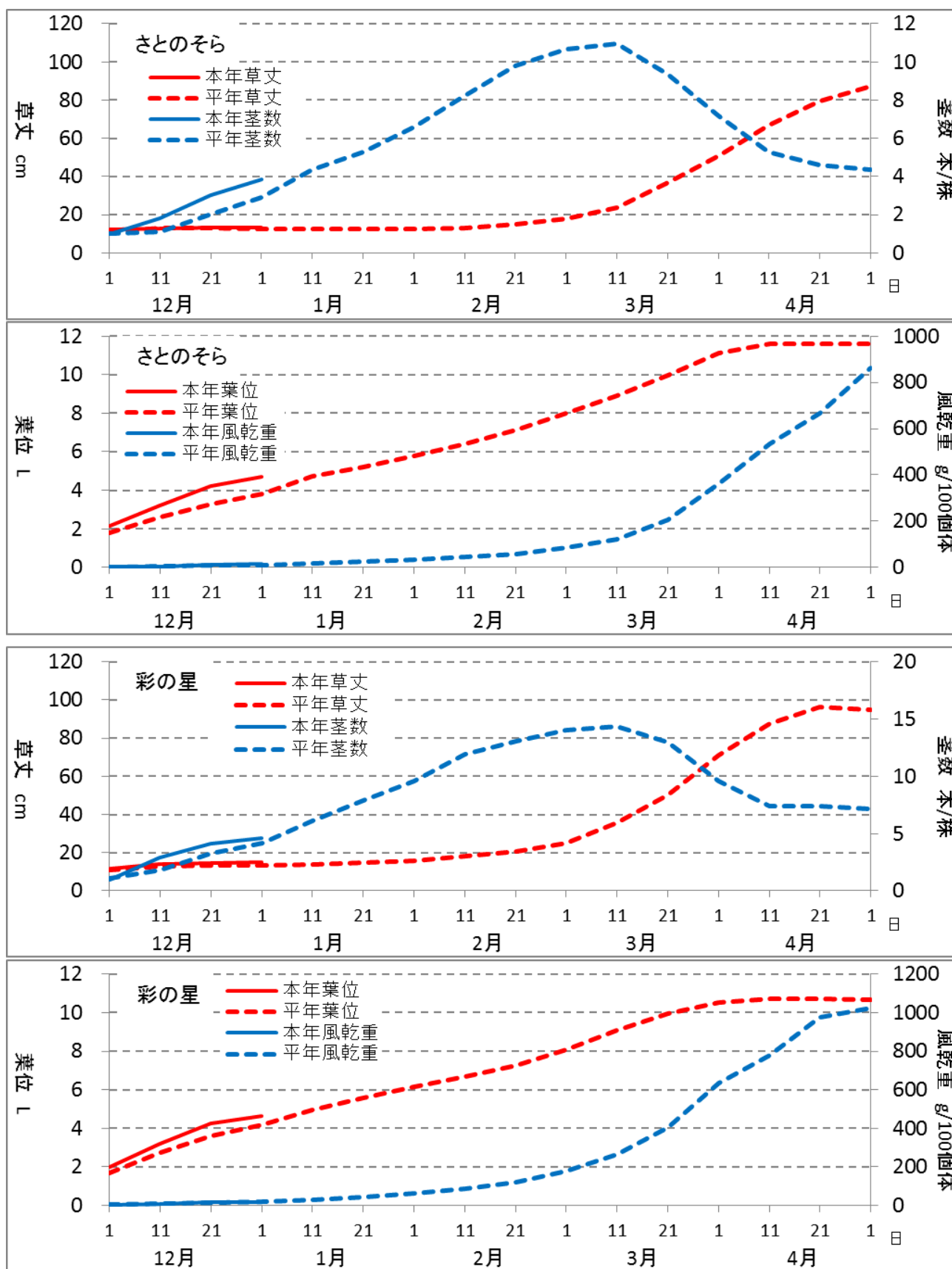
2 生育状況

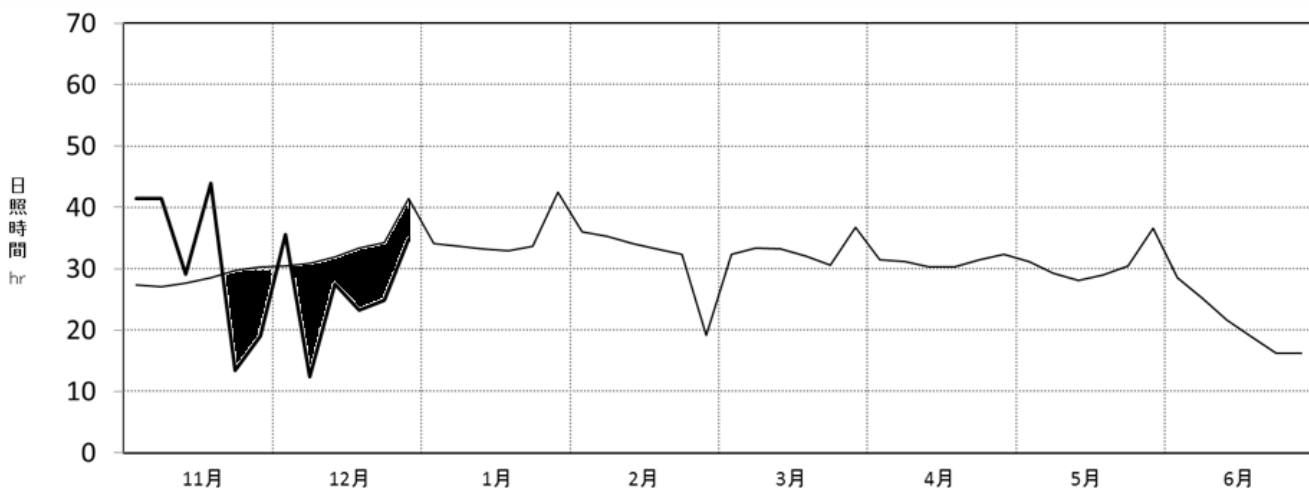
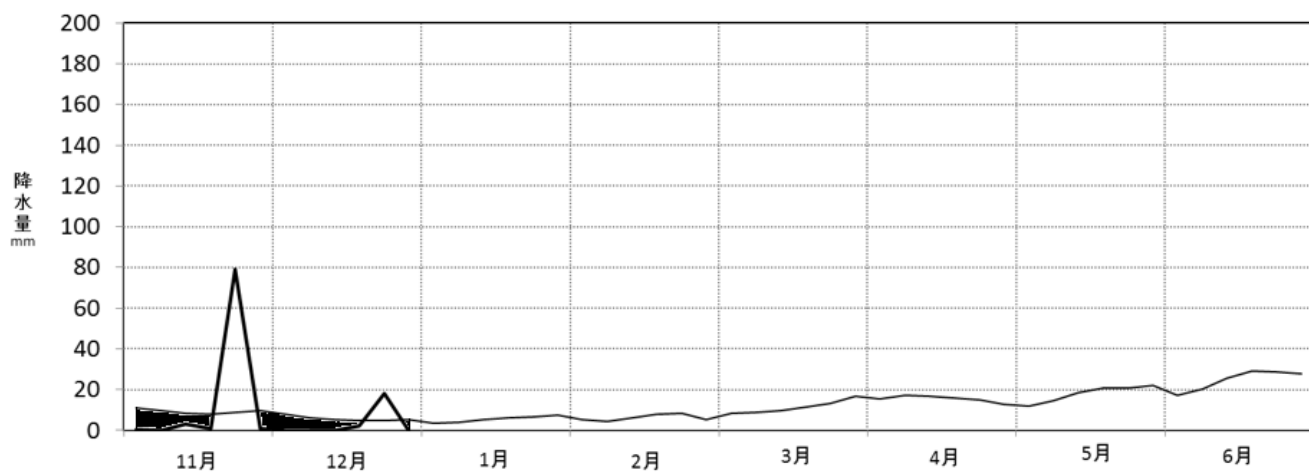
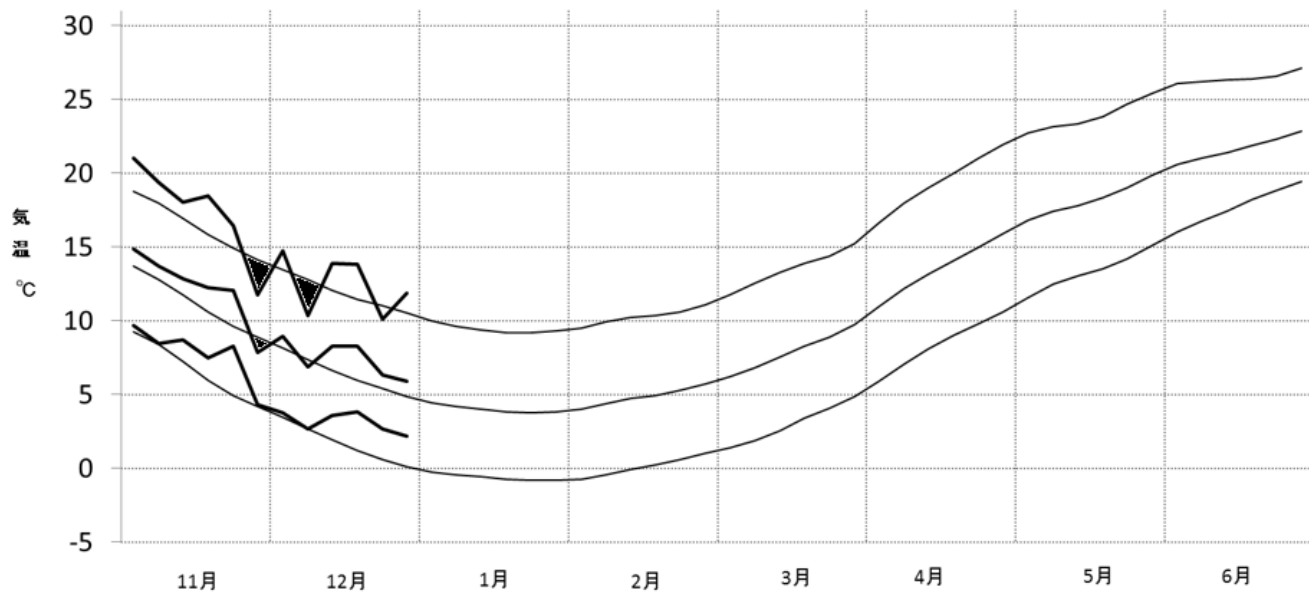
品 種 名	調査日	草 丈		茎 数		葉 位		風乾重		風乾歩合	
		本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本/株)	平年比 (%)	本年 (L)	平年差 (L)	本年 (g/100本)	平年比 (%)	本年 (%)	平年差 (%)
さとのそら	12月11日	12.7	99	1.8	160	3.2	0.6	5.2	116	19.7	-0.4
	12月20日	13.4	105	3.0	150	4.2	0.9	12.1	160	21.1	-1.0
	12月27日	13.3	104	3.9	134	4.7	0.9	13.9	126	20.3	-2.7
彩の星	12月11日	13.8	109	2.9	160	3.2	0.5	7.9	106	13.6	-1.0
	12月20日	14.8	113	4.1	126	4.3	0.6	16.4	128	15.0	-0.5
	12月27日	15.1	115	4.6	112	4.6	0.4	18.4	103	14.9	-1.4

注1.さとのそら平年値は、過去6年間の平均値。□ 彩の星平年値は過去8年間の平均値。

注2.風乾重は、100個体当たりグラム。平年比は%。風乾歩合は風乾重/生体重。

3 生育経過





令和元年播き冬作期間気象図
(熊谷地方気象台測定値)